

# 定期作況報告

平成24年8月  
(8月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温および平均気温は平年より高かった。降水量は平年より多かった（平年比147%）。日照時間は平年並であった（平年比116%）。

8月上旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より極めて低かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比67%）。日照時間は平年より少なかった（平年比39%）。

8月中旬：最高気温は平年より高く、最低気温および平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より少なかった（平年比45%）。日照時間は平年並であった（平年比92%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は平年と比較して、気温が平年並で、降水量はやや少なく、日照時間は平年並であった。

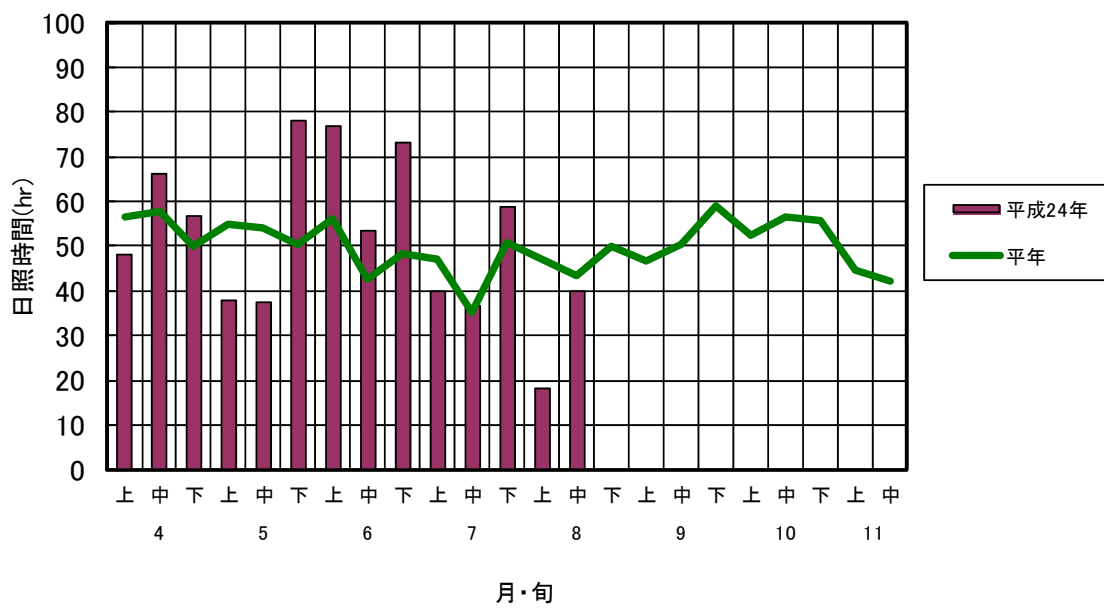
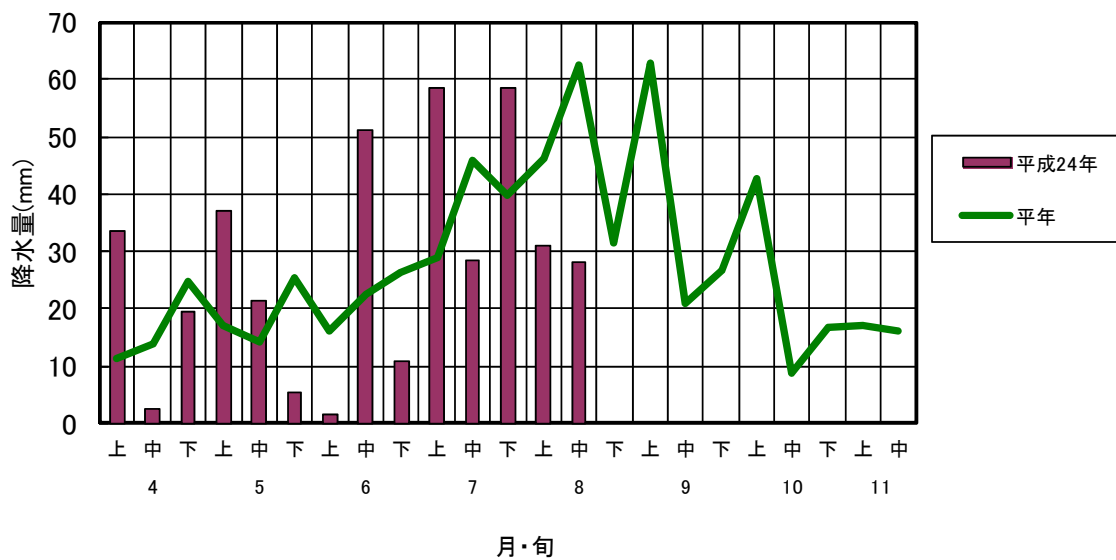
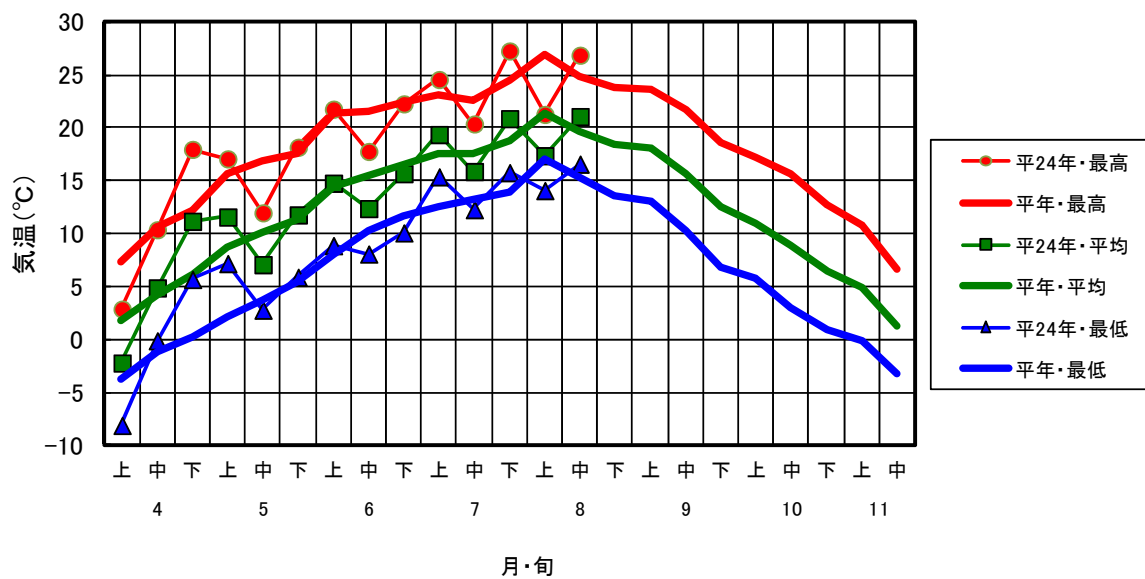
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	20.9	18.8	2.1	27.3	24.5	2.8	15.8	14.0	1.8
8月上旬	17.4	21.4	△ 4.0	21.3	27.0	△ 5.7	14.1	17.0	△ 2.9
8月中旬	21.1	19.6	1.5	26.9	24.9	2.0	16.6	15.3	1.3

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	58.5	39.7	18.8	59.0	50.9	8.1
8月上旬	31.0	46.1	△ 15.1	18.2	47.2	△ 29.0
8月中旬	28.0	62.5	△ 34.5	39.9	43.4	△ 3.5

注1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作況：やや良

事由：「きたほなみ」の出穂期は平年より4日早く、成熟期は平年より1日早い7月26日であった。登熟期間が平年より3日長かったことから子実の充実は良好となり、リットル重ならびに千粒重は平年を上回り、子実重は平年比105%とやや多かった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	7.26	7.27	△1
子実重 (kg/10a)	718	686	32
同上平年比 (%)	105	100	
リットル重 (g)	802	793	9
千粒重 (g)	40.0	35.9	4.1

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

### 2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：出穂期は平年に比べ2日早かったが、8月上旬が低温で推移したため成熟期は平年並となった。7月下旬の降雨により「春よ恋」において中程度の倒伏が発生した。穂長・穂数は平年並であった(前報)。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.9	8.9	0	8.10	8.10	0

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。  
「はるきらり(参考)」の平年値は前5か年の平均。

### 3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況：平年並

事 由：7月下旬は平年より高温で推移したものの、8月上旬が低温で推移したことから、開花期および抽糸期はともに平年より3日遅かった。しかし、その後8月中旬が高温で推移したため、草丈は平年を上回り、葉数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	8.7	8.4	3
抽糸期 (月.日)	8.6	8.3	3
草丈(cm) (8月20日)	323.6	305.4	18.2
葉数(枚) (8月20日)	14.9	14.9	0

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

### 4) 大 豆

作 況：やや良

事 由：開花始は平年より6日遅かった。8月上旬の日照時間が少なかったため、やや徒長しており、主茎節数及び分枝数は平年並であるが主茎長は平年より長い。開花始後に多くの花が一斉に開花する大豆においては、7月下旬の平均気温が高かったため着莢は良好で、着莢数は平年に比べ20%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.25	7.19	6
主茎長(cm) (8月20日)	74.8	61.5	13.3
主茎節数 (8月20日)	11.6	10.9	0.7
分枝数(本/株) (8月20日)	5.4	5.3	0.1
着莢数(莢/株) (8月20日)	85.9	71.3	14.6

注1) 平年値は前7か年中、17年(最豊)、平成21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆

作況：やや不良

事由：開花始は「エリモシヨウズ」が平年より5日、「サホロシヨウズ」が平年より4日それぞれ遅かった。8月上旬の日照時間が少なかったが栄養生長への影響は小さく、「サホロシヨウズ」は主茎長、主茎節数及び分枝数ともにほぼ平年並であり、「エリモシヨウズ」は分枝数が平年を上回ったが、主茎長及び主茎節数は平年並である。開花始後、徐々に開花数が多くなる小豆においては、8月上旬の平均気温が低かったため莢数は少なく、着莢数は「サホロシヨウズ」が平年より19%、「エリモシヨウズ」が平年より12%、それぞれ下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.28	7.23	5	7.29	7.25	4
主茎長(cm) (8月20日)	69.3	66.8	2.5	60.0	63.7	△3.7
主茎節数 (8月20日)	13.9	12.7	1.2	14.3	13.7	0.6
分枝数(本/株) (8月20日)	5.1	4.8	0.3	5.7	4.4	1.3
着莢数(莢/株) (8月20日)	48.0	59.1	△11.1	49.5	56.2	△6.7

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆

作況：やや良

事由：8月上旬の日照時間が少なかったため、やや徒長しており、主茎節数及び分枝数は平年並であるが草丈は平年よりやや高い。開花始(7月10日)後、8月上旬の平均気温は平年より低かったが、7月下旬並びに8月中旬の平均気温が高かったため、莢数はやや多く、着莢数は平年に比べ13%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	50.4	43.8	6.6
主茎節数 (8月20日)	5.1	5.2	△0.1
分枝数(本/株) (8月20日)	4.9	5.2	△0.3
着莢数(莢/株) (8月20日)	25.1	22.2	2.9

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：8月上旬中旬の降水量が少なかったことから塊茎の肥大はやや緩慢となり、上いも重は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年をやや下回っているが、両品種とも茎長、茎数は平年並であり、でん粉価は平年並からやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	50	50	0	87	85	2
茎数(本/株) (8月20日)	3.5	3.3	0.2	3.1	3.1	0.0
上いも重(kg/10a) (8月20日)	4228	4350	△ 122	3166	3298	△ 132
でん粉価(%) (8月20日)	15.3	15.2	0.1	21.4	20.0	1.4

注) 平年値は前7か年中、平成17(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：やや良

事 由：7月下旬から8月中旬の気象条件は、ほぼ平年並であった。地上部の生育は、草丈、茎葉重が平年をやや下回ったものの生葉数は平年をやや上回った。一方、根重および根周は平年を上回っている。

以上のことから目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播注2)		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	58.8	63.2	△4.4	54.2	58.9	△4.7	60.8	65.5	△4.7
生葉数(枚) (8月20日)	27.8	26.4	1.4	26.6	26.4	0.2	30.1	25.5	4.6
茎葉重(g/個体) (8月20日)	798	888	△90	827	924	△97	1008	952	56
根重(g/個体) (8月20日)	667	659	8	835	721	114	567	474	93
根周(cm) (8月20日)	30.0	29.9	0.1	34.1	32.0	2.1	27.6	26.8	0.8

注1) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 直播「モノホマレ」は欠株が多いため参考成績。

9) 牧草(チモシー)

作況: 良

事由: 2番草は平年より2日早い8月8日に収穫を行った。草丈はやや低かったが節間伸長程度は平年並であった。生草収量は平年より多かったものの、乾物率が低く、乾物収量は平年比100%と平年並で、1番草との合計乾物収量は平年比113%と多かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	8.8	8.10	△2
節間伸長程度	2番草	3.3	3.3	0.0
病害罹病程度	2番草	3.0	3.4	△0.4
草丈(cm)	2番草	58	64	△6
生草収量(kg/10a)	2番草	1079	878	201
乾物率(%)	2番草	18.2	22.8	△4.6
乾物収量(kg/10a)	2番草	196	196	0
同上平年比(%)	2番草	100	100	
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	897	792	105
同上平年比(%)	1+2番草	113	100	

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況: 平年並

事由: 7月下旬以降、平年と比較して降水量はやや少ないものの、気温は平年並であり、生育は概ね順調であった。晩生種「スーパー北もみじ」の球肥大期は平年より2日遅かった。倒伏期は、早生種「改良オホーツク1号」では、平年より1日早く、「スーパー北もみじ」では、平年並であった。一球重は、「改良オホーツク1号」では、平年並であり、「スーパー北もみじ」では、平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期(月.日)	7.7	7.6	1	7.22	7.20	2
倒伏期(月.日)	8.1	8.2	△1	8.12	8.12	0
一球重(g)(8月20日)	274.1	265.3	8.8	231.9	248.7	△16.8

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとした)、22年(最凶)を除く5か年の平均。